

資額は71億5000万円余となっている。新年度は、最も活用の多い経営環境変化対応特別資金の予算を40億円に増額し、中小企業の資金需要に対応する。③1月末現在、2874件である。

◆関連質問

・厳しい景気・経済状況下における市政運営 (市民連合)  
 ・緊急雇用対策の拡充と中小・零細業者の仕事確保 (日本共産党)

自主防災組織の支援は

(明政会)

**問** 県内の市単位では初めて、自主防災組織が80学区のすべてに設立された。地域の防災訓練では各消防署に配備する煙体験ハウスを活用しているが、震度体験も重要と考える。しかし、体験できる装置・起震車は本市にはなく、地震体験訓練の充実と防災意識の高揚を図るためには起震車の保有が必要では。

**答**

防災講演会や出前講座など

でビデオ、パンフレットにより、地震の怖さや備えの重要性について啓発に努めている。起震車などによる体験訓練は地震に対する備えの意識を高めるために有効と考えるが、今後とも自主防災組織と緊密な連携を図り、訓練の充実と防災意識の高揚に、より効果的な方途について研究していく。



中学生も参加した自主防災訓練(西学区)

太陽光発電設備の市民啓発への活用は(新政クラブ)

**問** 公共施設などへの太陽光発電の設置について、22年度は福山クリーンセンターや箕島浄水場などへ導入する計画となっている。本市が導入する太陽光

発電設備について、広く市民啓発や学習に活用することが望まれるが考えは。

**答**

22年度はごみ固形燃料工場へ太陽光発電設備とLED照明を設置する計画であり、太陽光パネルを地上に設置し、見学者通路にLED照明を整備するなど、啓発効果の高いものにする。

また、リサイクルプラザやリサイクル工場に整備を進めている太陽光発電設備を、リサイクル施設の見学コースに追加し、内容の充実を図っていく。

◆関連質問

・これまでの成果と今後の方針について (水曜会)

一般廃棄物処理基本計画の進捗は (公明党)

**問** 基本計画は2010年度が計画の中間目標年次になるが、最新の数値と取り組み状況は。また、発生・排出抑制およびリサイクルの推進に向け、今後の福山らしい取り組みは。

**答**

2008年度で、ごみ排出量は目標15万7000トンに対し約15万9000トン、リサイクル率は43・4%、最終処分量は目標2万トンに対し約1万8000トンであり、着実にごみ減量を推進している。今後の計画は、市民一人ひとりが協働して取り組むことができる目標を定めることが必要で、福山らしい特徴的で効果的な取り組みができるよう、市民合意を得る中で、今後2カ年で見直していく。



リサイクル工場のプラスチック手選別ライン

◆関連質問

・資源ごみの持ち去りについて (明政会)  
 ・ごみ問題など自治会単位で取り組みするための指針を (市民連合)